

詩

眼を！

新潟 かな山 つる

あまりにも 惨酷だから
こどもには 見せないでおこうって？
あまりにも 汚いから
純粋な心には 刺激が強すぎるなんて――

いかげんな憶測をするな
私欲にまかせて しでかした
ことの重大さにおびえて真実をかくす
おまえのにぶった頭脳で高をくくるな
おまえの銀行のあの二重扉
ぞっとする冷酷な金属音にほくそえむ
おまえの麻痺した感覚のどこに
純粋を語る資格があるのか

見よ
三池に 砂川に 夕張に
どんなに暗い地底からも
射すくめるように届く
少年のあの視線を

眼をひらけ
凝視せよ
あきらかに いま見るものが
かなしみであろうとも 少女よ
ほんとうにかなしいものを見た眼だけが
美しいものを見ることが出来る

× ×
金山ツルさんは、新潟県佐渡郡和田町八幡
一七二三の一にお住まいで、CO患者・遺族を
守る会の会員です。この詩は、本紙の新年文芸
募集の呼びかけにこたえて寄稿されたものです
が、新年号の紙面の関係でやむなく本号に収載
させていただきました。――編集部

亡き友の追憶をこめて鳴り、二つ
の小学校、一つの中学校、六つの
保育園では、町民とともに一斉に
黙祷します。

十一月五日。
六十七年前の一九一四年(大正
三年)、田川の三菱方城炭鉱で発
生したガス爆発で千人以上(会社
発表は六百七十一人)の犠牲者を
出した、わが国二番目の炭鉱災害
の追悼集に参加しました。

一九六三年十一月九日の三池の
炭じん爆発後も、止むことなく続
発する炭鉱災害。また十月十六
日、北炭夕張で、三番目の大災害
をひき起こしました。

筑豊に築かれた炭鉱労働者の墓
場。ボタ山の形が変えられ、忘れ
られても、生命を奪われ、傷つき
放り出される労働者は後をたな
ない。方城炭鉱災害を、土地の古老
は「大非常」といいます。

炭を掘るための方城村。今は乱
掘された坑道に、腹いっぱいの水
をはらみ、陥没の恐怖と同居しな
がら、生活保護、失業対策事業で
支えられて生き抜いていました。
この方城の町に、一つの光がしだ
いに輝きはじめるのを見たので
す。

小学生と共に事実を学ぶ

―― なぞの方城炭鉱大爆発 ――

23分会 (三川) 池 畑 重 富

私は、伊方小学校五年二組の生
徒となりました。
「犠牲者の方々を、会社はちゃ
んとみてくれたでしょうか」
「少しのお金とひきかえに、生
命を奪われていいでしょうか」
「過ぎ去ったこととして済ませ
ていいのでしょうか。今も三池・
夕張など災害は続いています」
「自分のこととして受けとめる
ことが大切ではないでしょうか」
そう問ひかける先生の言葉が、
今も忘れられません。

× ×
三菱方城炭鉱の大災害について
は、すでに幾井書吾氏が永年にわ
たつて現地調査と追跡を行なっ
ています。

それは『方城大非常』(朝日新
聞社刊)、『流民の果て』(大月
書店刊)、『なぞの方城炭鉱大爆
発』(国土社刊)、などに結実し
ています。

『流民の果て』は千三百円。
『なぞの方城炭鉱大爆発』は千二
百円。いずれもわずかながら編集
部にありますので、ぜひ一読を
おすすめします。

両地評が
旗びらき

大牟田地評では一月八日午後五
時半から「すぎき会館」で新年の
旗びらきを行いました。地評傘下
百四十人が集まり、県評・地評・
社会党・共産党・労働協代表など
のあいさつを受けたあと乾杯、新
しい年への誓いを新たにしまし
た。

荒地評でも同じく旗びらきを行
い百三十人が参加、県評・地評・
社会党・共産党・労働協などのあ
いさつのもと、団結して闘うこ
を意志統一しました。

写真は大地評の旗開き



地域分会で

新年団結集会

例年のように三池労組の各地域
分会では、新年の団結集会が行わ
れました。

諏訪・川尻校区、三小校区、四
小校区などでは、年のかわる〇時
から。寒い夜中の行事ですが、そ
れぞれ三十人前後の組合員・主
婦・退職者などが集まり、団結と
統一を闘うことを誓い合いました。
また緑ヶ丘校区では午前十一
時から、天道校区では十日とい
うように、他の校区でもそれぞれ
行われました。

【写真は四小校区の団結集会】

「賀状展」を

ぜひご覧下さい

葉書の値上げがたつた、例年に比べると賀状の交換
も、やや少なかったようですが、各地の友人・知人からの暖
い交流が寄せられました。
めずらしいもの、手のこんだ手造り賀状、心のこもったも
のなどみなさんから寄せられた賀状を集めて展示いたしまし
た。ぜひ一度ご覧になってください。

展示日時 一月十四日(木)
～二十日(水)
展示場所 組合事務所会議室
会場では、素朴な味
わいのある信楽焼(滋
賀県)の即売会も行っ
ています。

原告団消息

12月25日 原告団企画事務局会議
26日 石原重喜さん(労災病
院入院)の奥母ジュキ
さん逝去。心から哀悼
の意を表します。

末日 北川すみえさん(遺
族)天領病院を退院。
1月15日 事務局便り六号発行。

山野鉦訴訟が和解

命の代償には少ないが

本紙十二月十六日号で、若干の
経過をふくめ、山野鉦訴訟の訴訟
で裁判所の職権和解勧告が出され
たことをお知らせしました。

その後、山野遺族会(足立サカ
エ会長・会員七百三十四人)は十
二月二十三日、総会を開いて和解
勧告を受け入れることを決めまし
た。

今年六月から自主和解の交渉を
続けていたが、双方の主張が
かみ合わず決裂、福岡地裁飯塚支
部(岡野重信裁判長)が和解案を
提示。和解案は「死者とCO患者
の労災認定三級は一人当り千三百五
十万円、CO患者の同七級は六百
七十五万円」というものでした
が、遺族側はこれを認めたもの
の、会社は「死者は認めるが、支

山野鉦ガス爆発訴訟経過

- S40・6・1 山野鉦業でガス爆発事故発生。死者237人、CO中毒患者29人出る
- 50・8・3 山野炭鉱遺族会結成
- 50・6・30 福岡地裁飯塚支部で、当時の山野鉦業採掘部長ら5人が業務上過失致死傷などで有罪判決
- 53・6・10 遺族が山野鉦業と三井鉦山を相手取り福岡地裁飯塚支部に損害賠償訴訟起こす
- 53・6・27 遺族が損害賠償の二次訴訟起こす
- 53・12・1 第1回口頭弁論
- 55・3・27 福岡高裁で業務上過失致死傷などに問われた当時の山野鉦業採掘部長ら4人に逆転無罪判決
- 56・6・15 三井鉦山が遺族側に非公式和解申し入れ
- 56・11・16 自主和解交渉決裂
- 56・12・7 福岡地裁飯塚支部が原告、被告双方に職権和解案示す
- 56・12・23 遺族会総会で三井鉦山和解案の受け入れ決める